

○葬式休暇制度がある……



私が勤務する社会福祉法人も、町内の他の職場と同様に、葬式休暇という制度がある。隣組(りんくみ)で葬式ができたときに、手伝うためのものだ。僻地故に葬儀屋に頼れないため相互扶助が必要となってきた。

11月3日午前8時、町のふれあいまつりの出店準備をしていた私に妻から連絡が入る。「隣のばあちゃんが夜亡くなったため、組の男衆は9時に隣家に集合。」15軒全員が集まっていた。組長が説明する。日程、寺との連絡、写真、ドライアイス、墓堀、墓標作り、お通夜のお返し、引き物の手配、バス手配など。3日仮通夜、4日通夜、5日告別式、という日程に沿って、役割分担が決まっていく。隣室では女衆が3日間の食事作りの打ち合わせをしていて、妻が参加する。11月3日はいろいろな手配が主だったので、ふれあいまつりに参加できた。

11月4日は朝9時集合、お通夜に向けて、墓堀担当の4人は墓周辺の道の整備や周辺の清掃。他の10人は分担し寺でテント、花の設置、親戚衆の人数確認、駐車場案内、交通安全協会の人との打ち合わせ、挨拶状と塩をハンカチに差込み、引き物とともに、袋に入れる。夕方5時、だんだん人が集まってくる。香典の受け付けをして引き換え券を渡す。献花料にはお返しを出さずに、献花の紙に書いて貼り出す。6時通夜開始。お焼香が終わったら引き物とお通夜の品とを渡す。終了後、親族と隣組とが段払い。

11月5日、朝7時から準備し、出棺。その間、受け入れ準備。10時30分、火葬からお骨が帰ってくる。昨夜と同様に受付し1時から葬儀。終了後、担当者と親族とで墓埋めに行っている間に祭壇やテント片付けと段払い準備。段払いで飲んで終了。

奥多摩に来て7年、葬式の仕方も慣れてきた。組の付き合いも選挙以外ではそれなりにやっている。田舎暮らしにはこういう要素もある。



○コンピュータ??????

#コンピュータが突然カタまって動かなくなるときがある。そういうときでも、コンピュータは必ずこちらのせいにしてくる。「そっちが勝手に調子悪いのに、こっちのせいにしてやがって」と思いながらもいろいろボタンを押す。すると、相手も「不正な操作が行われました」という画面を幾重にも出して来る。冗談じゃない。「不正」という日本語は「正義ではない、邪な」という意味であって、不正確なという意味ではないのです。

#ところが、9月13日に国保連が行った「介護請求事務の留意点」という説明会資料では、不正のオンパレード。『入力方法が不正です。被保険者番号のコードが不正です。数値が不正です。』介護請求する人たちは不正だらけの邪悪な軍団のようです。説明では、たとえば、生活保護者のコードをH111ではなくh111と書くと返戻となるとのこと。でも、そんなのそっちのコンピュータが融通を利かせればいいでしょうに。

#それにくらべて、今月号の横内先生の懐の深いこと。目の前の老人が食べ足りないために食べていないと言うのを見守り、注射が痛いのもう延命は要らないと言っている老人が実は生きつづけたいと思っていることを見破り、弱い老人の立場に立とうとしておられる。老人医療に取り組んでいる私にとって、ずしりと響く内容でした。今度横内先生に会いに行こうと思うのです。

#以前本誌で紹介した聾重複障害者施設『たましろの郷』が青梅で建設に向かったのゴーサインが出ました。設計にあたって、北海道の聾重複者施設を見学してきました。印象的だったのは、北海道の施設の建物にはたくさんの倉庫や私物庫があったこと。施設の設計では、いろいろな機能の部屋を優先しがちだが、実は倉庫という懐も大事なのだと感じたのでした。